

農作物技術情報 第2号 野菜

発行日 令和6年 4月18日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当(電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 施設果菜類 朝晩は保温に努めますが、日中の急激な温度変化に注意しましょう。
- ◆ 露地果菜類 高畝の実施や、明渠の設置等により事前に湿害対策を行いましょう。
- ◆ 葉茎菜類 土壌が適度に湿った状態で早めに圃場を準備し、速やかに播種や定植を行いましょう。雨よけほうれんそうは、十分なかん水で生育を揃え、ホウレンソウケナガコナダニの防除対策を徹底しましょう。

1 生育概況

- (1) 施設果菜類の苗の生育及び定植後の生育は、概ね順調です。露地果菜類は現在育苗中ですが、生育は概ね順調で、圃場の準備が進められています。
- (2) 葉茎菜類の定植は、ねぎが県南部で平年並みの3月下旬、レタスが高冷地で平年より早めの4月上旬頃から始まっています。

2 技術対策

(1) 施設果菜類の管理

温度管理等に十分な注意が必要な時期です。

特に定植して間もないハウスでは、初期生育を良好に保つため、朝晩は保温管理を徹底するほか、日中は高温による葉焼け、萎れ症状に注意してください。

表1 作物別の温度管理の目安

作物名	最高気温	最低気温
きゅうり	30℃	12℃
トマト	30℃	10℃
ピーマン	30℃	17℃
いちご	30℃	8℃



写真1 トンネル保温の状況

ア 誘引前では保温マットやべたがけ資材による保温管理を実施します。

イ 誘引後は必要に応じて補助暖房を活用し、表1の作物ごとの最低気温を確保します。

ウ 日中の最高気温は30℃を越えないよう管理します。

施設内の急激な湿度変化を防ぐため、乾燥した空気がハウス内に流入する場合には、風上の側窓・天窓は閉める、もしくは、少しの開放に止め、風下の側窓・天窓を開けて、換気を実施します。

エ 施設内が乾燥している場合の通路かん水等は、日中の気温が高まる時間帯に行います。特に半促成きゅうりでは空中湿度の低下を防ぎ側枝の発生を促すよう、状況に応じて行います。

(2) 露地果菜類の圃場準備

果菜類は、収穫期間が長期間続くため、圃場づくりが重要です。特に排水不良は収量に直接影響するため、水田転換畑では、高畝の実施や明渠を設置するなど、排水性の確保に努めます。

また岩手県では、キュウリホモブシス根腐病総合対策に取り組んでおり、発病抑制のための重点実施事項は「基本の栽培管理を徹底する＝根をしっかりと張らせる」、「早期に感染リスクの把握に努め、被害を最小限にしよう」です。露地きゅうりでは圃場 pH が低い傾向にありますので、最適 pH である 6.5 を目標に改良します。

(3) 葉茎菜類の管理

ア 露地葉菜類の霜害回避と事後対策

この時期に定植する葉菜類は、一般的に低温に強く、霜害の心配は少ないですが、定植から活着までの間に強い霜に当たると被害を受ける場合があります。気象情報を参考にして、定植予定日直後に強い霜が予想される場合には、定植時期をずらして被害を回避します。

アスパラガスが降霜により被害を受けた場合は、被害茎を早めに取り除いて株の消耗を軽減するとともに、次の若茎の萌芽を促進します。

イ 露地葉菜類の適期定植とべたがけ資材除去

圃場準備や作業の遅れ、高い育苗温度等による苗の老化により、定植適期を逸する恐れがあります。育苗温度は低めに管理するとともに、苗が老化した場合は次作用の苗を用いる等、作業計画を調整します。圃場準備は、乾燥時にはスプリンクラー等で散水する、降雨を待つ等、土壌が適度に湿った状態で行います。

4月中旬に定植するレタス、キャベツは、風の無い温暖な日に定植を行います。低温が予想される時に、やむを得ず作業を行う場合、べたがけ資材により、植え傷みの防止、凍霜害の軽減を図ります。ただし、べたがけ資材の除去が遅れると高温による変形球発生等の障害が見られるため、表2を目安に除去します。



写真2 スプリンクラーによる散水

表2 べたがけ資材除去の目安

	べたがけ資材の除去時期	備 考
レタス	半月(5日間)の最高気温の平均が16℃以上になったら除去する。ただし、これ以下の気温でも結球開始期には除去する。	PP(パオパオ等)、PE(パスライト等)は、べたがけ下の温度が上がりやすいので、被覆除去を早めにする。
キャベツ	最高気温が18℃程度になったら除去する。ただし、これ以下の気温でも結球開始期には除去する。	

ウ 雨よけほうれんそうの管理

日中好天で強風の気象条件が続くと、圃場が予想以上に乾燥する場合があります。仙台管区気象台発表の1か月予報(4月11日発表)では、平年より平均気温が高い確率が高く、平年同様に晴れの日が多くなる予報なので、播種時のかん水は十分行き、生育ムラが生じないようにします。

ハウレンソウケナゴナダニによる被害は、今年も既に一部地域で見られています。薬剤防除のほか、以下の対策を行ってください。

- ・未熟な有機物(粃殻、わら等)の施用を避ける。
- ・有機入り配合肥料に比べ被害が軽減できる化学肥料を施用する。
- ・土壌表面が乾燥しないように生育中のかん水を行う。
- ・被害が見られた株を抜き取りハウスから離れた場所で処分するなど。

3 肥料コスト低減に向けて

令和4年に急騰した肥料価格はその後低下傾向にあります。依然として高止まりが続いています。このため、土壌診断に基づく適正施肥や、たい肥などの有機物の活用、施肥量低減技術の導入、肥料銘柄の見直しや調達方式の改善等により、コスト低減に努めましょう。

岩手県では、肥料コスト低減に向け、下記のマニュアルを発行し、岩手県ホームページに掲載しています。是非一度、お手持ちのパソコンやスマートフォンから確認してください。

岩手県肥料コスト低減対策マニュアル（令和4年1月）

https://www.pref.iwate.jp/res/projects/default_project/page/001/049/686/hiryoukoutoumanyuaru0406.pdf

春の農作業安全月間 [4月15日]

[~6月15日]
「ひと休み 急がば回れ 農作業 ゆとり忘れず 安全管理」

山火事防止運動月間 [3月1日]

[~5月31日]
「忘れない 山の恵みと 火の始末」

岩手県では例年3～5月に、野山が乾燥し、野焼きが原因と思われる林野火災が多発しています。やむを得ず野焼きを行う場合は、消防署に届け出たうえで、火の取り扱いに十分注意しましょう。

次号は5月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。